

2019 年度 日本島嶼学会 宮古島大会

テーマ：宮古島から展望する島嶼の未来

主 旨：

近年の技術進歩や価値観の変化によって、隔絶性・遠隔性・狭小性といった島嶼地域の不利性が克服される時代を迎えている。そこで求められるのは、島嶼の側の主体性と自律性である。孤立した状況下で醸成されてきた独自の歴史や文化、豊かな自然環境、課題克服に挑戦する社会・経済の仕組み、小さなコミュニティで育まれた人々の絆など、それぞれの島では多くの知恵と工夫が連綿と受け継がれている。これらを島嶼地域において受け継ぎ、さらに発展させ、将来世代に継承していくことが島の持続的発展につながっていく。また、島嶼地域における取組の成果を、同様の地域課題を有する非島嶼地域に向けて発信することによって、島嶼が世界の条件不利地域の問題解決をリードする存在となる。47の有人島と113の無人島を抱え、それらが各々の個性をいかんなく発揮する沖縄。その中でも最もユニークな島の一つである宮古島において、島の可能性と未来を考える機会としたい。

◆大会会場

宮古島市未来創造センター

住 所：宮古島市平良東仲宗根 8 0 7 番地

電話番号：0980-73-1123（未来創造センター中央公民館）

◆大会受付

場 所：多目的ホール前 ホワイエ（通路）

受付開始時刻：10月26日（土） 9:30～

10月27日（日） 8:30～

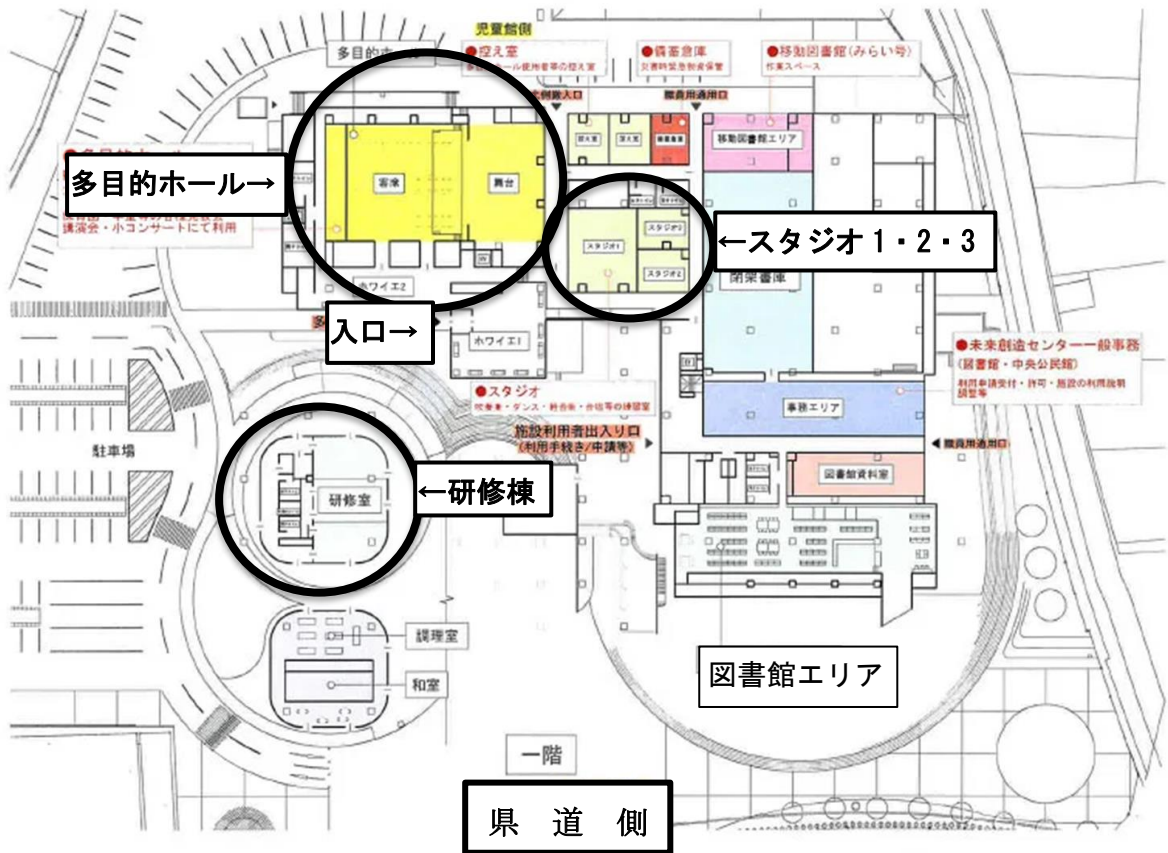
◆口頭発表に関する注意事項

- ※ 発表時間は20分（発表15分・質疑5分）、時間を厳守してください。
- ※ パワーポイントを使用する場合は、発表ファイルをセッション開始前に会場設置のパソコンに入れてください。
- ※ マックを使用する場合は、発表を円滑に始められるよう、コネクター等を御自身で準備してください。

◆館内での飲食について

- ※本センターの規則に従い、本大会では昼食以外の茶菓の提供はできませんのであしからずご了承ください。
- ※ご自身でペットボトル飲料をお持ちいただくことは可能です。
- ※昼食は、ホワイエまたはスタジオ1・3の中でお召し上がりください。多目的ホールには絶対に持ち込まないでください。

◆会場案内図



大会日程

10月25日（金）

■島の医療を考える研究会（研修棟研修室）

14:00～17:00

■理事会（研修棟研修室）

17:00～19:00

10月26日（土）

■開会式（多目的ホール）

10:00～10:15 会長挨拶：中俣均（日本島嶼学会会長）
来賓祝辞：（調整中）

■一般公開シンポジウム（多目的ホール）

10:15～12:00

テーマ：島嶼における伝統文化と観光：現状と課題

基調講演 小西潤子氏：沖縄県立芸術大学准教授

関連講演 下地和宏氏：宮古島市史編さん委員会委員長，宮古郷土史研究会会長
中村良三氏：株式会社プラネット・フォー代表，京都造形芸術大学講師

■研究発表（会場A：多目的ホール，会場B：スタジオ1）

【会場A:多目的ホール】

A.1. 政策と社会（13:00～14:40） 座長：前泊美紀

13:00-13:20 A.1.1 波名城翔：離島の市町村における自殺の現状

13:20-13:40 A.1.2 寿洋一郎：島嶼における国政選挙

13:40-14:00 A.1.3 安元悠子：言語的階層のはざまでゆれる言語イデオロギーに関する
質的研究—宮古島・石垣島から沖縄島移住者へのインタビュー分析
を中心に

14:00-14:20 A.1.4 日高優介：石油備蓄基地誘致反対運動におけるクレーム申し立ての
展開について—1973年の奄美大島宇検村を事例に一

14:20-14:40 A. 1. 5 宮地英敏：アメリカ統治下の尖閣沖油田と鉱業法等の改正

A. 2. 特別セッション「宮古島の今と未来」（14:50～17:15）

オーガナイザー：嘉数啓（日本島嶼学会名誉会長）

14:50-15:00 嘉数啓：セッション開会挨拶

15:00-15:20 A. 2. 1 三上暁：エコアイランド宮古島の取り組みについて

15:20-15:40 A. 2. 2 今中政輝：宮古島の低炭素化に向けたデマンドレスポンス実事業化の取り組み

15:40-16:00 A. 2. 3 八木田克英、岩船由美子：宮古島のエネルギー消費行動と再生可能エネルギーの導入

16:00-16:20 A. 2. 4 黒沼善博：地下水の有限性からみた宮古島の近未来

16:20-16:40 A. 2. 5 奥野一生：観光・交通動向から宮古島の観光・交通を考える

16:40-17:00 A. 2. 6 堀本雅章：宮古島市大神島における観光地化と住民意識の変化

17:00-17:15 総括コメント（岩谷暢子）およびフロアとの質疑応答

【会場 B: スタジオ 1】

B. 1. 観光と振興（13:00～14:20） 座長：梅村哲夫

13:00-13:20 B. 1. 1 Ollyna RAHOLISOA、梅村哲夫：マダガスカルの Nosy Be Island における観光と文化に関する考察

13:20-13:40 B. 1. 2 金徳謙：Web Scraping 技法を活かした四国 4 県におけるインターネット予約サイト及びその利用者の特徴分析

13:40-14:00 B. 1. 3 花渕馨也：コモロ諸島における世界遺産と分離主義

14:00-14:20 B. 1. 4 Eve Hida MOREI、梅村哲夫：パラオ共和国の観光と財政健全化に関する考察

B. 2. SDGs と財政（14:30～15:30） 座長：長谷川秀樹

14:30-14:50 B. 2. 1 梅村哲夫：太平洋島嶼国の開発モデルに関する実証分析

14:50-15:10 B. 2. 2 松村悠子：事例から分析する島嶼地域におけるバイオマス利活用拡大の展望

15:10-15:30 B. 2. 3 小川領一、河合溪：小島嶼開発途上国におけるプラスチックごみの現状と課題

B. 3. 文化の継承（15:40～17:00） 座長：宮平盛晃，原アリーナ

15:40-16:00 B. 3. 1 高宮広土：海上の道仮説再考

16:00-16:20 B. 3. 2 宮平盛晃：沖縄県先島諸島における現代の女性神役の変化のプロセスと年代—広域フィールドワークに基づく分析を中心に—

16:20-16:40 B. 3. 3 原アリーナ：「八重山の宮古人」が管理する八重山の御嶽—戦後移民が担う島嶼文化の復興・伝承—

16:40-17:00 B. 3. 4 平岡あみ：琉球王朝祭りにみる地域芸能を活用したイベントによる
青年への影響

■2019 年度総会・各賞授賞式（多目的ホール）

17:30～18:30

■懇親会（会場未定。決定次第通知いたします。）

19:00～21:00

10月27日（日）

■研究発表（会場B：スタジオ1，会場C：スタジオ3）

【会場B：スタジオ1】

B. 4. 島の水資源（9:00～10:00） 座長：藤田陽子

9:00-9:20 B. 4. 1 矢巻剛、小寺浩二：長崎県島嶼における水環境について

9:20-9:40 B. 4. 2 小寺浩二、矢巻剛、猪狩彬寛：石垣島の水環境に関する水文地理学的
研究

9:40-10:00 B. 4. 3 苗村晶彦、奥田知明：石垣島における O₃濃度の季節変動と西表島にお
ける渓流水質

B. 5. 島とは何か（10:10～12:10） 座長：長嶋俊介

10:10-10:30 B. 5. 1 吉岡慎一：島嶼地域における地域循環共生圏構築に係る意義

10:30-10:50 B. 5. 2 夏野葉月：幕末・明治の写真技法と絵図から読み解く小笠原諸島の歴史

10:50-11:10 B. 5. 3 村上和弘：国境離島と世界、国家、そして「人々」

11:10-11:30 B. 5. 4 合田正人：現代哲学における「群島」の観念

11:30-11:50 B. 5. 5 前畑明美：国内島嶼における「島嶼性」の表出

11:50-12:10 B. 5. 6 長嶋俊介：先島ネシアを日本ネシアの中に位置づける

【会場C：スタジオ3】

C. 1. 島における教育（9:00～10:20） 座長：可知直毅

9:00-9:20 C. 1. 1 碓井健寛：未就学者と離島—日本の有人離島における国勢調査未就学者
小地域集計—

9:20-9:40 C. 1. 2 東平福美：南太平洋大学の遠隔教育史

9:40-10:00 C. 1. 3 近藤日名子、可知直毅、黒川信、市古太郎：島しょにおける首都大学東京の取りくみ—伊豆大島公立中学校での火山泥流災害の学びへの地域貢献—

10:00-10:20 C. 1. 4 森隆子、稲留直子、兒玉慎平、米増直美、波多野浩道：未知の“シマ”フィールドワークにおける学生の経験

C. 2. 島の生活環境 (10:30~12:30) 座長：河合溪

10:30-10:50 C. 2. 1 谷口光代、宮崎のどか、米田さおり、榮紀美枝、新納直久、野中涼子：離島に在住する妊婦の島外母体搬送時における現状と課題

10:50-11:10 C. 2. 2 溝田浩二：対馬でのミツバチ研究からみえてきた西表島の生態系の特異性

11:10-11:30 C. 2. 3 鳥居享司、酒井真帆、河合溪、西村知、小川領一、Apimekeli Cokanasiga：フィジー共和国沿岸住民の水産資源利用の変化—ナマコ資源管理強化によるインパクト—

11:30-11:50 C. 2. 4 河合溪、西村知、鳥居享司、A. コカナシカ、小川領一、J. ベタヤキ：沿岸域砂泥底に生息する二枚貝の漁業活動と島内での移動—フィジー諸島共和国ビチレブ島東部の村落を例に—

11:50-12:10 C. 2. 5 藤木利之：東ポリネシア・クック諸島アチウ島の植生変化による人類到達年代

12:10-12:30 C. 2. 6 山本宗立：ミクロネシア連邦ピンゲラップ島における長期間にわたる食事調査結果

■エクスカージョン

13:15 参加者確認，バス乗車 ※時間を厳守してください。

13:20 未来創造センター出発

<巡見ルート>伊良部大橋→牧山展望台→宮古島市地下ダム資料館→かたあきの里

16:00 宮古島空港（降車可能）

16:15 未来創造センター到着，解散